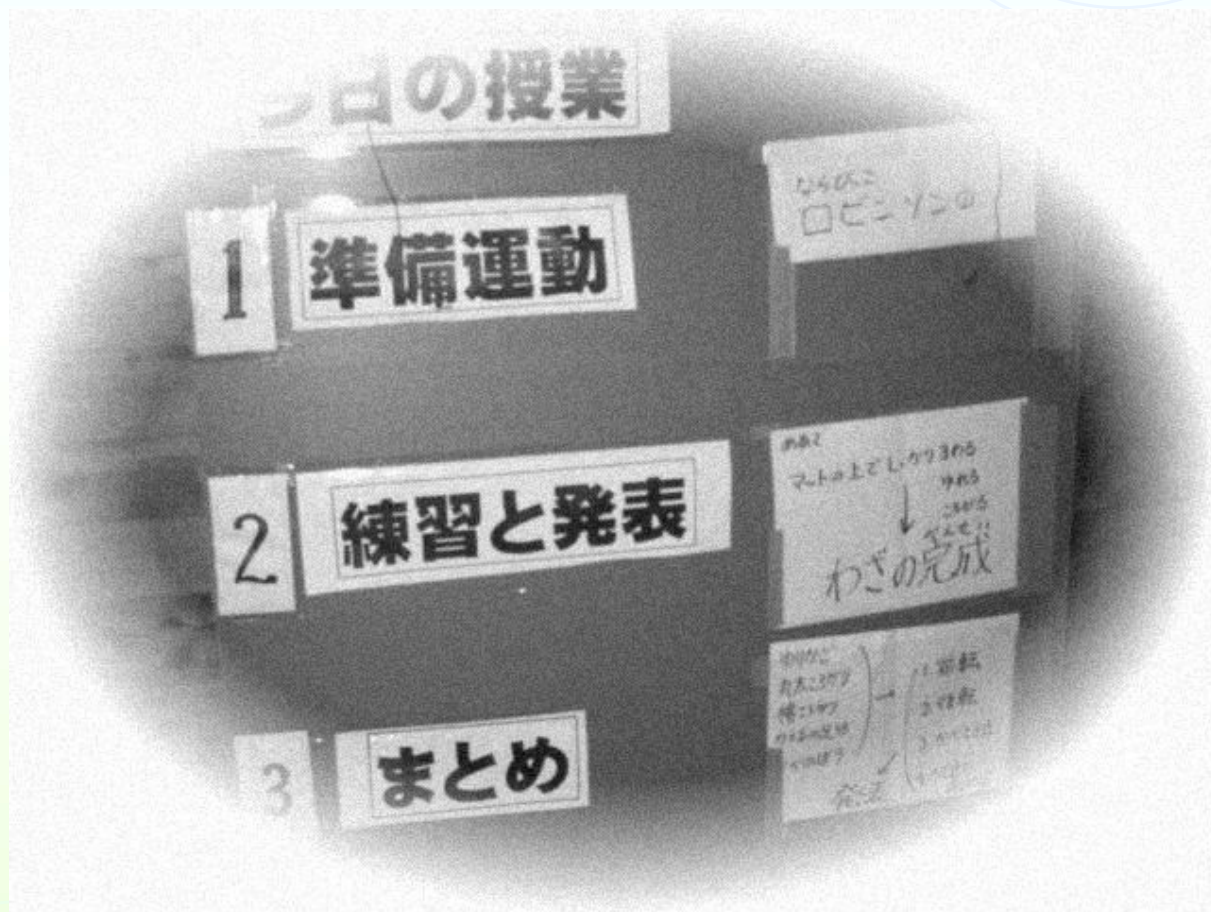


通常の学級における

特別支援教育の観点を取り入れた授業づくり

—アセスメントシートを活用して—



平成23年2月
岡山県総合教育センター

はじめに

このブックレットは、アセスメントシートの結果から、担任が何に気づき、どのような指導・支援を導き出し、具体的な授業に生かしていったのか、その実践例を中心に掲載しています。

なお、中学校では、教科担任制という特徴を踏まえ、各教科の担当者が共有できる指導・支援の導き出し方にポイントを置き、あえて具体的な教科を取り上げた実践事例は掲載していません。

INDEX

・ はじめに	
1 アセスメントシートについて	1
2 アセスメントシートを活用した実践事例	
(1)小学校第5学年（国語）	3
(2)小学校第3学年（体育）	9
(3)中学校第1学年（話を聞く）	14
(4)中学校第3学年（ノートを正しくとる）	16
3 活用につながる支援の手だてリスト	18
・ おわりに	



このキャラクターは、教師が行った指導・支援について、その意味や背景を分かりやすく解説してくれます。

また、このブックレットでは、教師による支援を「学級全体に対する支援」と「個に対する支援」とに分けて記述しており、**全**という記号は「学級全体に対する支援」、**個**という記号は「個に対する支援」という意味です。

1 アセスメントシートについて

アセスメントシート

○小学校第4～6学年用（改変して一部を掲載）

(問題1)
「4つの言葉を見つけましょう」

③
ふうとうようすおんぶきり

②
まつりこうふくきぼうのむ

①
たいようあついながいたに

「①ことばを見つけよう」

(問題2)
「次の文章を書き写しましょう」

ここは南国です。一年中半そでの服で過ごすことができます。赤や黄などの色とりどりのおいしいくだものがたくさんとれます。中でもドリアンは、くだものの王様とよばれ、とても人気があります

「②書き写そう」

(問題3)
「見た数をならんでいたとおりに書きましょう」

1	6	5	4	7	9	3	6
---	---	---	---	---	---	---	---

「③見た数を答えよう」

(問題4)
「例文を読みます。メモを取らずによく聞いて覚えましょう」

お父さんの留守中に電話がかかってきました。「もしもし、佐藤と申しますが、お父さんに伝言をお願いします。明日の待ち合わせのことなのですが、時刻を9時15分…

問題①
「電話は誰からでしたか？」

問題②
「待ち合わせの時刻はいつでしたか？」

「④説明を聞いて答えよう」

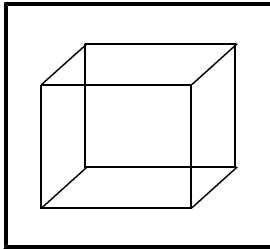
(問題5)
「絵に名前をつけるとしたら、次のうちどれがぴったりでしょう」



① 男の子と女の子二人が砂場にいる絵
② はっぱがたくさん落ちている絵
③ 砂のトンネルをこわされ、女の子がおこっている絵

「⑤何の絵でしょう」

(問題6)
「下の形を右のページのわくの中にかきましょう」



「⑥形を写そう」

(問題7)
「『ほ』をさがして○をつけましょう」

あいうえおほくほ…

はひふへほまみむ…

っほうきえりほま…

いけっはほもやる…

「⑦ひらがなを見つけよう」

(問題8)
「聞いた数を順番に書きましょう」

①

6	2	9	7
---	---	---	---

→

--	--	--	--

②

7	1	8	6	2
---	---	---	---	---

→

--	--	--	--	--

「⑧聞いた数を答えよう」

Q アセスメントシートを使えば、どんなことができるのですか？



A このアセスメントシートを使えば、学級集団の学習にかかわる諸能力の全体的な特徴を把握し、それに応じた指導・支援を導き出す一助にすることができます。学習につまずくおそれのある子どもを事前に予見し、予防的にかかわることができます。そんなシートです。





Q 具体的には、どんな力を測ることができるのですか？

A 問題は全部で8問あって、次のような力を測定することができます。

- ①「ことばを見つけよう」
→語を視覚的なまとまりとして素早く認識できる力
- ②「書き写そう」
→文章を見て書き写す力・特殊音節を表記する力
- ③「見た数を答えよう」
→見た内容を少しの間記憶しておく力
- ④「説明を聞いて答えよう」
→聞いた内容を理解し記憶しておいて、必要とされる情報を取り出す力
- ⑤「何の絵でしょう」
→（絵に描かれた）場の状況を理解する力
- ⑥「形を写そう」
→平面または立体図形を見て、その構成を理解し、描き写す力
- ⑦「ひらがなを見つけよう」
→注意を持続し、指定された視覚的な情報の中から、必要とされる情報を選択する力
- ⑧「聞いた数を答えよう」
→聞いた内容を少しの間記憶しておく力

1単位時間で実施できるのも魅力ですね



Q 発達検査は他にもあると思うのですが？

A 認知機能をとらえるための心理発達検査は幾つかあり、有効なアセスメント手段として使用されています。ただし、これらの検査の多くは個別式で、通常の学級全体に対して、そのまま実施することは難しいのです。

Q このアセスメントシートにより、発達障害の児童生徒かどうか

見当がつくのですか？

A いいえ。このアセスメントシートは、決して、児童生徒の障害の「ある・なし」について判断し、ラベリングするものではありません。授業における指導・支援にどのように役立てるかということに、目的があるのです。アセスメントシートから得られた情報を基に、児童生徒の実態を総合的に把握することで、より適切な指導・支援が導き出されるのではないかと考えています。



Q アセスメントシートの結果は、どのように授業づくりに結び付くのですか？

A アセスメントシートの結果は各観点ごとの人数の多少といった視点だけではなく、複数の観点を関連させながら考えていくことで、より具体的な支援を導くことができます。このブックレットにも「支援の手だてリスト」の一部を紹介し、アセスメントの結果から具体的な指導・支援を導き出しやすいように工夫しています。

2 アセスメントシートを活用した実践事例

1

小学校第5学年の実践（国語「同じ読み方の漢字に親しもう」）

クラスの実態

- ・ 本学級の児童（男子14名，女子15名）は，漢字の宿題や漢字テスト前の練習に一生懸命取り組む姿が見られる。しかし，漢字に対して苦手意識があったり，定着が今一步であるために，日常生活で漢字を適切に活用しづらかったりする児童もいる。
- ・ 特に◆児や★児は，集中力が持続しづらく，教師や友達の言葉に注意を向けることが難しい。また，文字を正しく書いたり視写したりすることが苦手である。

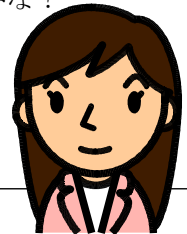
アセスメントシートの結果

測定する力	Aグループ	人数	Bグループ	人数
①語を視覚的なまとまりとして素早く認識する力	◆○○○	4	○○○○○○	6
②文章を見て書き写す力	◆★○○○	5	○○○○○	5
③見た内容を少しの間記憶しておく力	○○○	3	○○○○○	5
④聞いた内容を記憶して，必要な情報を取り出す力	○★	2		0
⑤（絵に描かれた）場の状況を理解する力		0		0
⑥図形を見て，その構成を理解し，描き写す力	◆★○○○○○	7	○○○○○○○○○	9
⑦注意を持続し，必要とされる情報を選択する力	◆○○○○	5	○○○○○○	6
⑧聞いた内容を少しの間記憶しておく力	◆★○	3	○○○○○○○○○	10

※Aグループは，本学級において学習上の困難があることが予想される児童。Bグループは，本学級において学習活動に十分適応していることが予想される児童。その他は，概ね学習に適応していることが予想される児童（以下同様）。

担任の気付き

- ・ ②⑥⑦が弱い児童が多いわ。そう言えば，ノートのマス目の中にきちんと書くことが苦手だったり，バランスよく書きづらかったりする児童がいる。どんな支援をすればいいのかな？
- ・ ⑦については，集中力が続くように何か工夫しておいた方がよさそうね。
- ・ ②が弱い児童の中に◆児や★児がいる。確かにノートをとる時間が遅いし，黒板を何度も見ないとノートがとれない。支援の手だてを考えないと。
- ・ ★児はおとなしくて今までそんなに声をかけてこなかったけれど，色々な困難さがあることがよく分かった。気を付けておかないといけないわ。



授業プラン

- 1 単元名 同じ読み方の漢字に親しもう
～「カンジ博士の暗号解読」～
- 2 教材について

本教材は，単なる新出漢字の習得や熟語の意味理解だけではなく，既習の漢字の知識を使って文脈と読みを想像し，その文意に合った漢字を導き出すことで，語いも広がっていくという要素を持つ教材です。そして，漢字に苦手意識のある児童が，暗号文というパズルを楽しく解く活動を通して，熟語や漢字の意味を考え，漢字を書く機会を重ねることで，日常の文章を書く際に漢字が自然に使えるようになることをねらいとしています。

本学級にも，漢字をバランスよく書いたり，文章に合わせて適切に漢字を使ったりすることが苦手な児童がいます。この学習を通して，漢字の適切な使い方が身に付いたり，漢字を書くことへの関心が高まったりすることを期待しています。

記号の横にふりがなと漢字を書きましよう。

② 私の家族は、
●物が大好きだ。

（ ）

① 私の家は、児
●▲■の近くだ。

（ ）


【暗号文の一例】

3 単元目標

- 同じ読み方の漢字を進んで調べたり、意味を考えたりしながら漢字を使おうとする。
- 同じ読み方の漢字を文脈に沿って適切に使い、漢字の特質に気付くことができる。
- 漢字の特質を理解した上で、文や文章の中で使うことができる。

5 本時案

目標：解き方の手順に沿って解いたり、解いた方法を相手に伝わるように説明したりすることを通して、漢字の特質に気付くことができる。

学 習 活 動	全 教 師 の 支 援 と 指 導 上 の 留 意 点
1 本時のめあてを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ○前時に暗号文作りに意欲的に挑戦したことを賞賛する。 ○自分たちが考えて作った暗号をみんなで解読することを伝える。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 友達の作った暗号文を解読して、カンジー博士をめざそう。 </div>	
2 1問目を全体で解き、前時までの学習を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ○解きやすい問題を1問目にする。 ○暗号文の解き方の手順を拡大して示した紙を見せて確認する。 <div data-bbox="496 954 1091 1151" style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> まず、一番分かりやすい○番から解く。 分かった記号には、振り仮名を振っておく。 記号を漢字に直す。 分からない場合は、辞書を使う。 </div> <div data-bbox="1134 887 1374 1205" style="text-align: right;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> ○発表の話型もここで確認する。
3 自分で選択した問題から解く。	<ul style="list-style-type: none"> ○個人差があるため、難易度を変えた問題を4問用意する。時間内であれば、幾ら解いてもよいことを伝える。 ○振り仮名や漢字が書きやすいようにワークシートを用意する。また、発表の補助としても活用できるようにしておく。 ○分からない児童のために、ヒントカードを用意しておき、いつでも見て解いてよいことを助言する。
4 発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ○隣同士（又は3人）で答えの求め方を確認させ、解いた過程が相手に分かりやすく説明できたかどうかを確かめさせる。また、隣同士での発表を何度か繰り返させることでパターン化し、全体での発表の手がかりとする。 ○もし、解答が異なっていたら辞書で確認するように助言する。 ○発表をする側は、自分の考えが相手に伝わるように意識し、聞く側は、解いた過程が分かりやすく説明できているかどうかをチェックしながら聞くように助言する。
5 学習のまとめをする。	<ul style="list-style-type: none"> ○振り返りカードには、評価の観点を示しておく。それに従って、振り返りをするように助言する。 ○残りの問題は、朝学習などで解いていくことを伝える。

4 本單元における支援のポイント

- 目当ての明確化と学習活動の見通し
- ヒントカード、話型などの支援の提示の仕方（児童による選択）
- 児童による主体的な問題作成と難易度別課題（児童による選択）
- 困難さに応じて工夫されたワークシートの活用

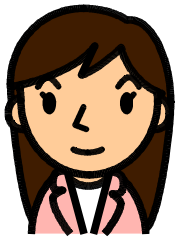


資料・準備物：暗号文、暗号文の解き方の手順、発表の話型、ワークシート、振り返りカード、ヒントカード

アセスメントシートの結果から導き出された支援・配慮の意味や背景

個 支援を必要とする児童への手だて

- 1 単位時間の授業の流れを小黒板に示し、見通しを持たせる。
- 手元に置いてすぐ確認できるように手順や話型をプリントしたものを渡す。



◆**児**や★**児**に対する支援が、他の児童の支援にもつながっているわ。

- すぐに活用できるように、辞書が手元にあることを一緒に確認する。
- 解けそうな問題から挑戦することを伝える。
- 解き方の手順とワークシートとを照らし合わせながら、最初に取り組む問題を決めるよう声をかける。また、ワークシートに記入する欄を一緒に確認しておく。
- 解けたことを賞賛しながら、次に、発表の準備をすることを伝え、見通しを持たせる。
- 解いた過程を説明できるように、ワークシートの話型に沿って、記入欄に番号や記号、言葉を記入しながら、まとめるように声をかける。

評

A：多様な問題を選択して、暗号文を解いたり相手に伝えるように説明したりすることができる。
(ワークシート・説明・振り返りカード)

価

B：解き方の手順に沿って暗号文を解いたり、解いた過程を説明したりすることができる。
(ワークシート・説明・振り返りカード)

個 集中力が持続しにくい児童のために、学習の流れを示し、見通しを持たせています。そうすることで、児童は安心して学習に取り組むことができます。また、集中力が途切れても、それを見ることで学習に再度取り組むための手がかりにすることができます。

全 文字を記入する負担を減らし、字形を整えやすくしたワークシートを作成したことで児童は意欲を持続させながら達成感を味わうことができます。

個 苦手意識が強い児童の場合、課題への取りかかりがポイントになります。ここでは、個々の児童の困難さを詳細に把握し、一緒に確認したり、丁寧に声をかけたりするなどの支援をしています。

個 解答をスムーズに説明できるようにするために、考えた道筋が残る工夫をしています。考えたことをすぐ忘れてしまう児童には必要な支援です。また、発表の機会を与えることで達成感を味わわせたいと考えています。

全 Bを達成するために、ヒントカードなどの具体的な手だてが想定されています。そのため、明確な支援を行うことができます。

授業の実際

板書記録

授業プランを基に、実際には、どのように指導・支援が行われていたのか、振り返ってみましょう。



投影用の白マグネット版

【解き方の手順】

- ① 分かりやすい文を探す。
- ② 読み方が分かった記号
(●や▲■)に、ふりがなをふる。
- ③ すべての記号にふりがながふれたら、漢字に直す。

※分からないときは辞書を使う！

＜今日の流れ＞

- ① みんなで解く
- ② 一人で解く
- ③ とりのりと人々解き方を説明し合う
- ④ 全体で発表する
- ⑤ 振り返りカード

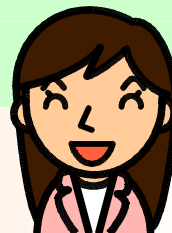
小黒板で表示し移動

友達で作った暗号文を解読して
カンジキ博士をめざそう

漢字のポイントを表にして掲示

主な学習活動	全 全体への支援と児童の動き	個 ◆児と★児への支援と児童の動き
<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時までの学習の確認をする。 ・ 自分で選択した問題から解く。 ・ 隣の児童に説明する。 ・ 全体で発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 漢字を学ばせるときには、色チョークを使って、始筆を示したり、線と線の交差を表したりするなど、視覚的に分かりやすく提示する。また、「たて、たて、よこ」などと音声情報も添えて書く。 ・ 教師のテンポのよい指示に従って活動する。 ○ 机間支援で、理解度に応じて個別支援を行う。手順カードが必要であれば使うように呼びかける。 ・ 話型シートに沿って考える児童と自分なりの方法で解決する児童がいる。問題が1枚終わっても進んで次の問題に取り組む。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>ワークシートに工夫があること、また難易度の違う問題が4問用意されていることで個人差が吸収されていました。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ ヒントがあればできそうな児童がいることを把握し、「自分の助けになると思ったら話型シートを取りにおいで」と呼びかける。 ・ 必要に応じて児童は自分からワークシートを取りに行き、その後、全体で自信を持って発表することができた児童もいる。 ・ 多くの児童が挙手し、発表する。 ・ 正解の漢字を伝えるときは、熟語を例に出して口頭で説明する。 ○ 実物投影機を使って答え合わせをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他の児童と同じように活動する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>シート結果の②⑥が弱い児童が多いという結果に合致した支援です。落ち着いた授業の導入となっていました。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「手元にカードがあった方がいい人？」と呼びかけながら、手順表を配付し確認する。 ・ カードを見ながら、自分で問題を解き始める。 ・ 枠の中にきちんと整った字を書く。 ・ 一人でワークシートを完成させる。 ・ ワークシートを手がかりにしながら、隣の児童に説明する。聞く側の児童も相づちを打ちながら聞く。 ○ 横で見守り、賞賛の言葉をかける。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>学級全体への明確な指示や適切な支援が行われているので、個別の支援が必要な児童に寄り添う時間が十分にありました。このように全体と個への支援をバランスよく行うことが大変効果的でした。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ ◆児のできている問題を意図的に指名する。 ・ ◆児が正答の「会」という字を板書すると、他の児童から拍手が起こる。

アセスメントシートを活用して <担任の振り返り>



全 学級全体へのかかわりを通して

<教材の工夫>

アセスメントシートの結果の②「文章を見て書き写す力」と⑥「図形を見て、その構成を理解し書き写す力」が弱い児童が多かったので、文字を記入する負担を減らし、字形を整えやすくしたワークシートを作成しました。そうすることで「暗号文を解読する」という本時の目標達成に向けた学級全体への支援ができたのではないかと思います。

また、解き方の手順や発表の話型を児童と一緒に考え、それをパターン化して学習の流れを一定にしたことも効果があったと思います。

<環境設定>

漢字を書くときのポイント（止め、払いなど）を表にしてまとめ、本単元を通して、教室前面に掲示して、必要な時にいつでも見ることができるよう、視覚支援を行いました。また、分からないときはいつでも辞典が使えるように配慮しました。

<ICT活用>

⑧「聞いた内容を少しの間記憶しておく力」が強い児童が多いので、口頭による説明や答え合わせだけでも理解できるかもしれません。しかし、児童のワークシートを直接投影して全体発表させることで、苦手意識のある児童の注意力も持続するのではないかと考え、実物投影機を活用しました。板書の時間も省略され、たくさんの問題に取り組むことができました。

個 個別の児童へのかかわりを通して

アセスメントシートを実施した結果を見て、支援が明確になりました。例えば「文章を見て書き写す力」が弱い◆児には、手順表などを大きく掲示するだけでなく、手元に置いてすぐ確認できるようにしたり、ワークシートを工夫し、最初に取り組む問題を一緒に確認したりすることで、最後まで問題に取り組み、自分から発表する姿が見られるなど手応えを感じました。

また、アセスメントシートの結果を見て、今まで余り意識していなかった★児の困難さも把握できたので、その児童へのかかわりを今まで以上に意識して増やした結果、児童が次第に自信を持って学習に取り組むことができるようになったことは大きな収穫です。

大切にしたいこと <全体を通してのコメント>



総合的にアセスメントする

明確で具体的な支援が児童にとって役立っていましたね。

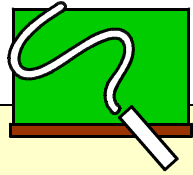
この学級には、友達が正解したことを一緒に喜んだり、自分に必要だと思ったヒントカードを気兼ねなく自由に取りに行く雰囲気がありました。

教師は、集中力が途切れやすい児童や多動傾向のある児童の座席を教室前方に配置し、児童の動きを予想しながら対応していました。また「話す・聞くときのルール」を教室に掲示し、児童が注意を促したい言動をとったときは、「〇〇君、これ」とその掲示物を指差すことで、児童にルールを思い出させ、行動を改めるよう促す場面が見られました。学級のルールが明確になっており、そのルールを上手に意識させることで、教師による注意の言葉を減らすことができました。

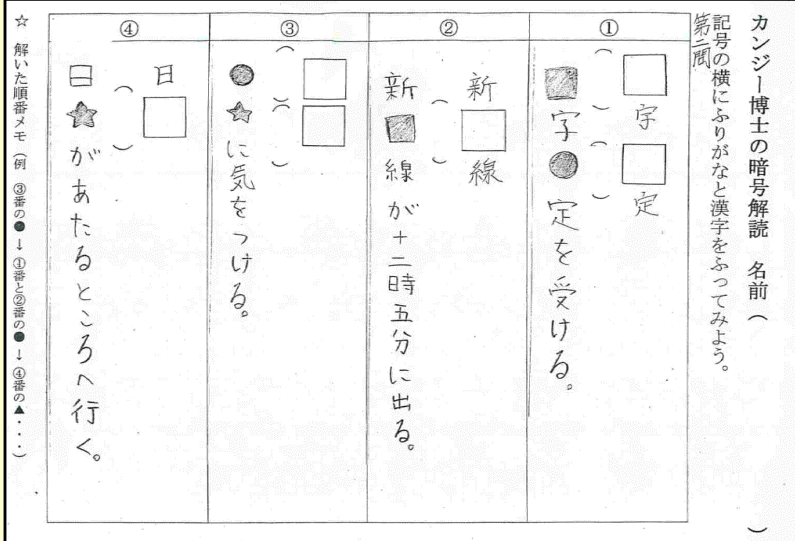
この実践を通して、日ごろの学習や生活にかかわる情報とも関連付けながら総合的にアセスメントすることの大切さを感じました。また、支援の必要な児童にとって、互いの違いを認め合うことのできる学級の雰囲気が、学習しやすい環境の基盤にあることを改めて感じました。



あんな支援 こんな支援



国語



「工夫されたワークシート」

児童が作った暗号問題です。括弧や枠、「解いた順番メモ」などの工夫があります。また難易度別に整理されて提示することで、自分で選択できるように配慮しています。

【発表のしかた】
「はじめに、「一番分かりやすい○番から解きました。」
「○番の記号□には、□というふりがなが入ります。」
「だから、すべての記号□に□というふりがなを
ふりました。」
次に、○番の記号□には、□というふりがなが入ります。」
また、記号□には、□というふりがなが入ります。」
最後に、「漢字に直すよ。」というふりがなをいきました。」
以上です。」

「話型カード」

必要な児童が自由に使えるように教室の前に置いてあります。

体育



図示された技のこつを見ている児童

「グループ学習における支援」⇔



「色の付いた輪ゴム」

手首に付けることで、自分の所属するグループやすべき活動が明確になります。



「手作りの授業ボード」

時間ごとにカードを入れ替えることが可能。児童は見通しを持って活動することができます。

教師はグループを回り、実際の体の動きを通して技のこつを言語化して伝え、励ましたり認めたりしています。

2

小学校第3学年の実践（体育「なかまとマット運動をしよう」）

クラスの実態

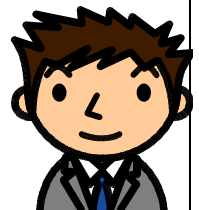
- ・ 本学級の児童（男子13名、女子11名）は、素直な子が多く、活動や課題に真剣に取り組もうとする児童がいる一方で、活動に集中できなかつたり、一斉指導では指示が伝わりにくかつたりする児童もおり、個々の課題は多岐に及ぶ。
また、体育等の交流及び共同学習の際には、知的障害特別支援学級の児童2名、自閉症・情緒障害特別支援学級の児童2名が加わる。
- ・ 学習面に着目すると、特に次の3点に配慮を必要としている。
 - (1) 言葉による指示の伝わりづらさ（聞き返しが多かつたり、別の解釈をしたりする児童）
 - (2) 活動に対する集中の途切れやすさ（すぐに注意がそれたり、活動自体に飽きたりする児童）
 - (3) 全体的な理解の遅れ（全ての活動において多くの支援を必要とする特定の児童）

アセスメントシートの結果

測定する力	Aグループ	人数	Bグループ	人数
①語を視覚的なまとまりとして素早く認識する力	●▲■	3	○○○	3
②文章を見て書き写す力	●▲○○○	5	○○○○○○○	7
③見た内容を少しの間記憶しておく力	○○○○○○○	7		0
④聞いた内容を記憶して、必要な情報を取り出す力	○▲	2		0
⑤（絵に描かれた）場の状況を理解する力	●○○○	4		0
⑥図形を見て、その構成を理解し、描き写す力		0	○○○○○○○○○○○	10
⑦注意を持続し、必要とされる情報を選択する力	○	1	○○○○	4
⑧聞いた内容を少しの間記憶しておく力	■	1	○○○	3

担任の気付き

- ・ 日常場面で感じられている児童の活動のしづらさが、得点の傾向に顕著に表れており、はっきりと数値化されているな。
- ・ ③や⑤が弱い児童が多い。ということは、板書等のどこに着目すればよいのか分からず、見たこともすぐに忘れてしまう子が多いということかな。
- ・ ●児や▲児は、ざわついた雰囲気があると集中して学習に取り組むことが難しく、環境に影響を受けやすいので、何か支援の手だてを考えよう。
- ・ 無難に学習場面をこなしているように感じられていた■児だけど、⑧の結果にあるように、聞いた内容を記憶しておくことが苦手だったんだ。だから、話を聞く場面では配慮が必要だな。



授業プラン

- 1 単元名 なかまとマット運動をしよう
- 2 教材について

マット運動では、基本的な回転技や倒立技ができることを目指しますが、技の出来栄がその場ではっきりと分かるので「楽しくない」と感じる児童にとっては、意欲的に活動を続けるのが難しい学習といえます。また、活動の空間が広いために自由度が高く、教師の指示が伝わりづらい状況となり、準備や片付けなどでは「協力する」ことが要求されるので、教師の工夫と配慮が必要になります。

学級の中には、活動に対して消極的になりがちな児童がいます。また、交流及び共同学習として特別支援学級の児童も参加しています。したがって、どの児童も楽しく活動に取り組み、達成感が得られるような学習にしたいと考えています。そのためには「4 本単元における支援のポイント」を基にした手だてを具体化して支援したいと思います。

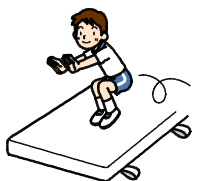
3 単元目標

- 友達と協力しながら，楽しく，安全にマット運動をしようとする。
- 自分の能力に合っためあてを持ち，技ができるようになるための活動を工夫することができる。
- 基本的な回転技や倒立技をすることができる。

5 本時案

- 目標：**○自分の苦手な技の練習でも，技のこつを見たり，友達同士で教え合ったりしながら，自分に合った適切な練習の場で，前向きに取り組むことができる。
- 自分の力に応じて，前転・後転・腕立て横とびこし・かべ倒立などの技ができる。

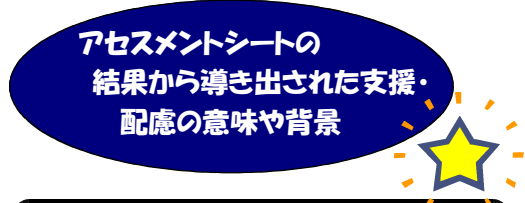
学習活動	全 教師の支援と指導上の留意点
1 授業の準備をする。	○体育館内の指示カード等を参考にしながら，全員で準備するように促す。 ・準備カードに従って，準備できるようにする。
2 準備運動をする。 ・ならびっこをする。 ・準備体操を行う。	○ならびっこ・リズム準備体操・全員移動などいつも行う運動を行う。 ・リズムよくできるように配慮する。 ・児童が好むテンポのよい曲に合わせて行うようにする。
3 本時のめあてを確認する。	○授業の流れを説明し，自分の「一番わざ」を発表することを伝える。 ・授業ボードを使用して注目しやすくし，見通しを持たせるようにする。
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">わざのもとコーナーで練習して「自分の一番わざ」を発表しよう。</div>	
4 「わざのもとコーナー1」で練習する。	○ローテーションしながら，五つのどの場でも練習できるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 「かべのぼり」 「かえるの足打ち」 「横転がり」 「丸太転がり」 「ゆりかご」 </div> ・それぞれの練習の場で動きのこつを図示して，個々が課題を意識して練習することができるように配慮する。
5 「わざのもとコーナー2」で練習する。	○ローテーションしながら，四つのどの場でも練習できるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 「前転コーナー」 「後転コーナー」 「かべとう立コーナー」 「腕立て横とびこしコーナー」 </div> ○技ができにくい児童や集中が途切れやすい児童に留意しながら進める。 ○活動に集中できにくい児童には，活動ごとにこまめに声をかけたり，マット運動に苦手意識のある児童には，できるようになった部分を取り上げて励ましたりする。
6 自分の「一番わざ」を発表する。	○自分が一番うまくできるようになったと思う技を選ばせ，順番に一人ずつ発表させる。 ○うまくなった動作や，練習中の頑張っていた姿などを必要に応じて紹介したり，児童からの賞賛のつぶやきを取り上げたりしながら，活動に対する満足感を味わうことができるように配慮する。
7 まとめをする。 ・協力して後片づけをする。	○次時は，技を連続させたり，組み合わせたりする活動に取り組むことを告げ，次時への見通しを持つことができるようにする。 ○台車等の扱いに気を付けさせ，安全に後片付けができるように配慮する。



4 本単元における支援のポイント

- 何をどのようにするのかを理解するための工夫
- 困難さのある児童が自分のすべきことを明確に理解できるための手だて
- 児童がスムーズに授業の流れに参加できるための配慮
- 交流及び共同学習としての観点

準備物：マット、ウレタンマット、跳び箱、段ボール、踏み切り板、CD、授業ボード、色ゴム、学習カード・記録カード



個 支援を必要とする児童への手だて

- 児童が楽しくなるような軽快な音楽に合わせて、準備体操を行う。
 - ・歩く、調子よくスキップするなど、特別支援学級の児童が自立活動でも行っている動作を取り入れることで、安心して活動できるようにする。
 - ・一つの指示で一つの動作を行うようにする。
- グループ分けには色ゴムを用いて、はっきりと自分のグループが分かるように工夫をする。
- 動きのこつを図示することで、気を付けるべき点を明確にする。また、図を一緒に見ながら体の動きを確認する等、動きをイメージできるようにする。
- 全くできない活動のみにならないよう、少し頑張ればできる活動の場を設定する。
 - ・前転の際に、あごにスポンジやタオルをはさむ。
 - ・後転の練習の場に傾斜をつけたマットを用意する。
- 発表の場で技に取り組むことに躊躇ちゆうちよしている児童には、動きのきっかけとなる声をかけたり、周りの児童にも応援するように働きかけたりする。



児童が話を聞くとときや、教師が指示するときにいつも配慮していることがあります。

- ◎ 評価**
- ・自分に合った適切な場で、練習に取り組むことができる。(観察・記録)
 - ・自分の「一番わざ」を決めて練習し、その技ができる。(学習カード・記録カード)

全 学習の流れやポイントを示すための授業ボードによって、児童は見通しを持ち、安心して活動に取り組むことができるようになります。

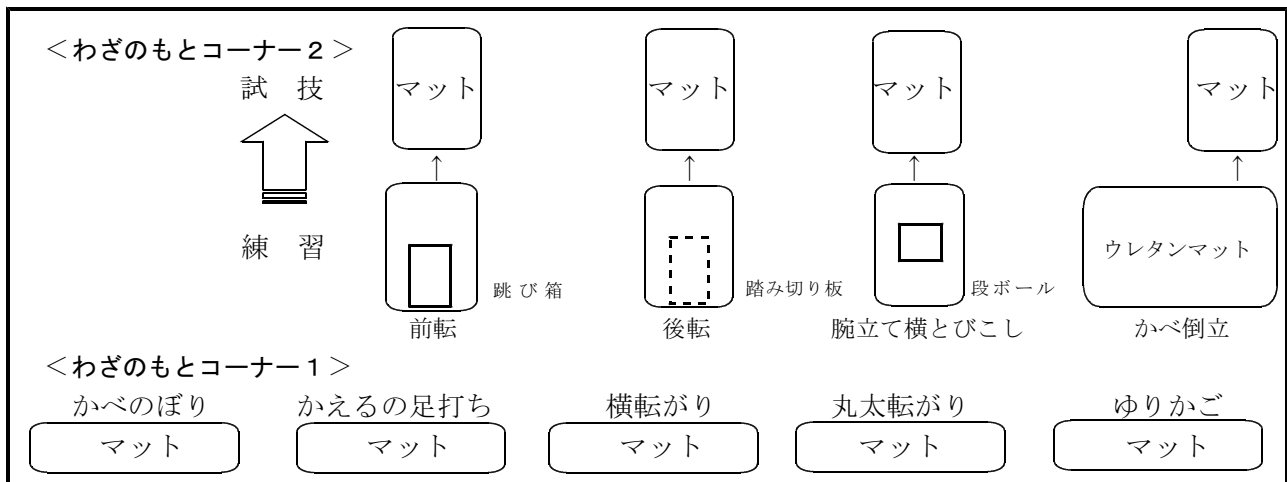
個 一つの指示で一つの動作を行わせることは、聴覚的な短期記憶が弱い児童にとっては、適切な支援であるといえます。

個 自分の体の動きがイメージできない児童がいます。ここでは、グループの友達同士で学び合う時間が確保されています。また、必要に応じて図示されている動きのこつを確認しながら学習を進めることができますので、意欲を持続させることができます。

全 練習の場ではスモールステップで活動を組み立て、児童に「できた」という実感を持たせるように工夫しています。体育のように「できる・できない」がはっきりした活動が多い場合、自己肯定感が下がらないようにする配慮が必要です。

全 児童に「聞く姿勢」について常に意識させるようにし、全員が話を聞く態度になるまで待つようにしています。また、教師も「明るい表情で」「短く指示する」などの配慮を常に心がけるなどして児童の聞く力を育てようとすることは大切です。

授業の実際



主な学習活動	● 全体への支援と児童の動き	■ ●児, ▲児, ■児を含めた配慮の必要な児童への支援と児童の動き
<ul style="list-style-type: none"> 準備運動をする。 「わざのもとコーナー1」で練習する。 「わざのもとコーナー2」で練習する。 自分の「一番わざ」を発表する。 片付けをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○軽快な音楽に合わせて模範演技する。「一つの言葉で、一つの動作」のパターンで指示を出す。 ○1～2分程度で次の場に移動させる。教師も、五つの場をくまなく移動して助言や補助を繰り返す。 ○安全面を考慮し、主にウレタンマット(かべ倒立)の場で児童の補助をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・動きのこつを見たり、友達と教え合ったりしながら技の出来栄を高くしている。 ○フロアに描かれた円の中に集合する指示を出す。 <ul style="list-style-type: none"> ・合図から1分で集合が完了する。 ○集合が完了するまで待ってから次の指示を出す。聞く姿勢のよい児童を賞賛する。 <ul style="list-style-type: none"> ・全員が「一番わざ」を発表する。 ○教師も一緒に片付ける。 <ul style="list-style-type: none"> ・3分程度で後片付けが完了する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・遅れることはあるが、教師の指示に合わせてリズムよく運動をする。 ・特別支援学級の児童もT2の補助で活動する。 ・グループの動きに合わせて合図を聞いて、すぐに移動する。 ○やろうとした気持ちを認めたり、前回より上手になっている点に着目して励ましたりする。 ・成功、失敗に関係なく挑戦しようと努力する。 ・図示された動きのこつを見たり、教え合ったりする。 ○児童の実態に応じて言葉を選びながら励ます。失敗しても「もう一回」とチャンスを与える。 ・友達から励まされたり、拍手をもらったりしながら最後まで取り組む。 ○誰が、何を片付けるのか役割分担を明確にしている。早くできた児童や、進んで手伝った児童をしっかり賞賛する。

アセスメントシートを活用して <担任の振り返り>

全 学級全体へのかかわりを通して

アセスメントシートの結果の③「見た内容を少しの間記憶しておく力」や⑤「(絵に描かれた)場の状況を理解する力」が弱い児童が多いクラスなので「注目すべきこと」が分からず、視覚的な情報をすぐに忘れてしまうのではないかと考えました。

そこで、準備の仕方を具体的に「誰が」「何を」「どこに」準備するのかを図と文字で説明したボードを準備し、単元を通して継続して使用する工夫を行ったところ、児童が手際よく準備や片付けを行うことができるようになりました。

また、グループ別活動の際は、動きのこつを図示して必要な時にいつでも見ることができる場を設定したので、自分の課題を常に意識しながら練習できたのではないかと思います。



個 個別の児童へのかかわりを通して

この学習は、指示が通りにくくなる状況が予想されたので、四つの支援のポイントを決めて取り組みました。例えば、「わざのもとコーナー」には、少し頑張ればできる活動を取り入れたり、自分のグループの所属がはっきり分かるように色ゴムを使ったりしました。すると、支援を必要とする児童も、他の児童を参考にしたり、友達と教え合ったりしながら、最後まで落ち着いて活動し、自分の「一番わざ」の発表もできて、達成感を味わうことができました。

また、■児は学習する上での困難さは感じていませんでしたが、教師の指示や説明の後に何度も尋ねてくる児童でした。このアセスメントシートの結果からその要因が把握できたので、しっかりと聞くように個別に声をかけたり、指示どおり活動できているかどうかを確認したりしたところ、今では聞き返してくることがほとんどなくなりました。アセスメントシートの結果は、児童一人一人に必要な支援が何であるかについて、改めて考える機会になりました。

大切にしたいこと <全体を通してのコメント>

■ 授業づくりと学級づくり

はじめがつきにくく、集中力も持続しにくい児童が多いクラスのようにでしたが、教師を信頼し、ルールを守って協力しながら学習する姿が見られました。

教師は、聞く態度を育てるために、集合してから聞く姿勢ができるまで、しなかったり注意したりするのではなく、児童を見つめて待ち、その後の指示・説明は分かりやすく簡潔に行っていました。その上、児童の活動が中心になっていたことで、児童の運動量も十分に確保されていました。そして、時間を短く区切って、ローテーションを行いながらいろいろな場で練習させる活動は、注意集中に困難のある児童には有効であると考えられます。学習障害の児童の中には、ボディイメージが弱く、自分の体の動きがとらえにくいことが予想される子もいます。自分の体の動きを、友達から教えてもらうことでイメージしやすくなる可能性があるため、ペアや小グループを活用した活動は効果的だったと考えられます。

また、交流及び共同学習は、障害のない児童が障害のある児童やその教育に対する正しい理解と認識を深めるためのよい機会になります。普段から特別支援学級と連携を図りながら、支援の必要な児童が少しでも参加、活躍できる環境を整えることは重要です。

こうして児童の実態の特性に寄り添った指導・支援を一つ一つ積み重ねることが、教師と児童の信頼関係を築き、児童同士のつながりも強くすると思います。学級づくりが、授業づくりの基本であることを改めて感じる事ができた実践です。



3

中学校第1学年の実践（話を聞く）

クラスの実態

本学級の生徒（男子15名，女子17名）は，活発に様々な活動に取り組むことができる生徒が多い反面，教師が繰り返し指示や説明を行なわないと集中して話を聞くことができにくい。グループ学習等では，積極的に自分の意見を述べる雰囲気もあり，興味があると集中して学習に取り組むことができる生徒が多い。

アセスメントシートの結果

測定する力	Aグループ	人数	Bグループ	人数
①語を視覚的なまとまりとして素早く認識する力	○○○○	4	●○○○	4
②文章を見て書き写す力	○○○○	4	●▲○○○	5
③見た内容を少しの間記憶しておく力	●▲○○○	5	○○○○	4
④聞いた内容を記憶して，必要な情報を取り出す力	○	1	▲○○○○○○○○○○○○	12
⑤（絵に描かれた）場の状況を理解する力		0		0
⑥図形を見て，その構成を理解し，書き写す力	▲○○○○○○○○○	9	○○○	3
⑦注意を持続し，必要とされる情報を選択する力	●○○○○	5	○○○○○	5
⑧聞いた内容を少しの間記憶しておく力	○○○○○○○	7	○○○○○○○○	8

担任の気づき

アセスメントシートの結果を見ると⑥⑧に弱さのある生徒が多いことが分かるな。
 普段から気になっていた，「聞く」ということに支援の手がかりを考えるのはどうだろうか。「聞く」ということは，どの教科にもかかわりが深く，各教科担任と支援方針を共通理解することで，生徒の支援につながりそうだ。

それから，生徒●や生徒▲は，学習面ではできることが多く，特に課題はないと思っていたけれど，③などに困難さがあることに気が付かなかったな。何か支援を考える必要があるな。



ところで，同じ聞くことに関連する力なのに，どうして④に弱さのある生徒が少なくて，⑧に弱さのある生徒が多いのだろう。そこに支援の手がかりがありそうだ。
 そういえば，同じ聞くことに関連する力でも⑧は，「378」と無意味な数字列を聞いて覚える課題だし，④は，短い話を聞いて，その内容に関する問いに答える課題だなあ。ということは無意味な数字は正確に覚えることは難しくても，意味のあるストーリーなら，覚えることができる可能性がありそうだ。興味があると集中できる実態があるから，聞き取る内容の意味が分かると覚えることができるかもしれない。

支援の実際

話を聞くことができるようにするために



アセスメントシートの結果から
導き出された支援・配慮の
意味や背景

全

<指示>

単語や文の区切りが分かりやすいようにする

- ・文と文の間は一呼吸おいて説明する。
- ・特に聞き取らせたい事柄は強調して伝える。

具体的な言葉で示すようにする

- ・「ここ」「あそこ」などの指示語をできるだけ控え、「○○を見る」「○行目を読む」と具体的に指示する。

指示内容を視覚的に示す

- ・言葉で指示するだけでなく、内容を黒板に書く。



<説明>

注意を喚起してから説明する

- ・「今から説明をするので、手を止めてこちらを見ましょう」「これから大切なことを言います」など、生徒の注意を喚起してから説明する。

視覚的な支援を活用する

- ・説明内容と対応する写真や図などを活用しながら、生徒の理解を促す。



<その他>

グループ学習の人数を調整する

- ・学習場面に応じて、話が聞きやすくなるようにグループを編成する。

学習の態勢を整える

- ・話し手に体を向けるなど集中して聞くことができる姿勢をとらせる。

アセスメントシートの結果から、生徒は、説明や指示が分かると、内容を覚えたり、理解したりすることが考えられます。このように、分かりやすい伝え方を工夫することは大切なポイントです。指示・説明が焦点化されると音声言語が減り、結果として生徒自らが指示・説明を聞き取り、活動にも意欲的に取り組むことができるようになると考えられます。

指示・説明は、教師がその伝え方を工夫するとともに、生徒の聞く姿勢を育てるといった視点も必要です。このクラスでは、生徒が発表する場面において、話し手の方に体を向けて話を聞くという手だてを考えています。

「聞く姿勢を整える」という基本的な学習態度を常に意識させることは、必要な支援といえます。

アセスメントシートを活用して

<担任の振り返り>

全

アセスメントシートの結果から、「聞く」ということに着目して指導・支援を考えることによって、常に自分自身がより分かりやすい指示・説明を心がけるようになりました。少しずつですが、以前よりも、生徒が落ち着いて学習に取り組むようになってきたと感じています。今後は、他の教科担任と効果的な支援について、どのように共通理解していくかを考えていきたいと思えます。



大切にしたいこと

<全体を通してのコメント>

担任からの情報によると、このクラスでは、アセスメントシートを実施した際に、いつもより集中して取り組む姿が見られたということです。その要因としては、まず、短い時間で課題が区切られていること、次に動作を伴う課題が多いこと、そして、目標が分かりやすいことが挙げられます。さらに、「聞く」ことに関連で考えると、シート実施の手順等に関する指示・説明が簡潔で明確であることが考えられます。担任は、その背景要因を見逃さず、授業の構成に取り入れようとしていました。



また、個に注目すると、一見、一斉指導の中で特に問題なく学習していると思われた生徒●や生徒▲に対しては、アセスメントシートの結果から明らかになった困難さによるつまづきが生じないように、机間支援の際に配慮を行うなど、担任は予防的なかかわりを計画していました。

第1学年は、「中1ギャップ」といわれるように、新しい集団や学習に戸惑う時期でもあります。このアセスメントシートを活用することによって、具体的な支援を考え、それを教科担任間で共通理解していくことが大切だと思えます。

4

中学校第3学年の実践（ノートを正しくとる）

クラスの実態

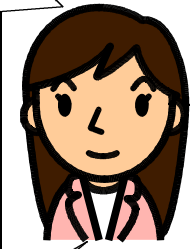
本学級の生徒（男子14名，女子19名）は，比較的，定期考査の成績はよく，意見を積極的に言うなど主体的に学習を進めることができる生徒が多い。しかし，注意散漫な面があり，板書をノートに写す段階で，単純な間違いなどが見られる生徒も多い。本学級の実態について，複数の教科担任が同様の印象を持っている。

アセスメントシートの結果

測定する力	Aグループ	人数	Bグループ	人数
①語を視覚的なまとまりとして素早く認識する力	○○○○○	5	○○○○○○○○○	8
②文章を見て書き写す力	○○○○	4	○○	2
③見た内容を少しの間記憶しておく力	○○○○○○○	6		0
④聞いた内容を記憶して，必要な情報を取り出す力	○○○○	4		0
⑤（絵に描かれた）場の状況を理解する力	○	1		0
⑥図形を見て，その構成を理解し，描き写す力	○○	2		0
⑦注意を持続し，必要とされる情報を選択する力	○○	2	○○○○○○○	6
⑧聞いた内容を少しの間記憶しておく力	○○○○○○○	6		0

担任の気付き

アセスメントシートの結果から，①②③④⑧に弱さが見られるわ。定期考査などの成績は悪くないのに，ノートの写し間違いがあるのを不思議に思っていたけれど，どうも①②③の弱さに関係がありそう。ノートの写し間違いについては，他の教科担任からの気付きもあるので，書くことに関する情報をアセスメントシートから得て，ノートを手直しするための支援に結び付けたいわ。



ノートを正しくとるまでには，どういうプロセスをたどるのかな。まず，黒板の文字に注目し，その文字を覚え，そして書くということがあるな。だから，①②③について，もう少し詳しく考えてみよう。

①は文字列の中から単語を見つけていく課題，②は，見本の文章をマス目のある用紙に書き写すという課題，③は「385・・・」と無意味な数字列を見て覚える課題だわ。
 これらのことに弱さがある生徒は，見て覚えることや文字列をすぐに意味のまとまりとして見分けることに難しさがあるといえるわ。
 具体的に考えると，このクラスでは，例えば，ポイントが示されないまま文章だけが長々と書かれた板書は，意味の区切りが分かりにくい上に記憶に残りにくく，そのために，ノートを正しくとることができないということになりそう。

支援の実際

ノートを正しくとりやすくするために



アセスメントシートの結果から
導き出された支援・配慮の
意味や背景

全

板書を構造化する

- ・ 1 単位時間の内容が分かるように左から右に流れを示す。
- ・ 黒板の左半分が生徒のノートの上半分に、黒板の右半分がノートの下に収まるように 1 ページで完結させる。

図や色を効果的に使う

- ・ 大事なところはチョークの色を変える。
- ・ 図や表を入れるなどして、情報を分かりやすくする。

板書の文字を大きく書く

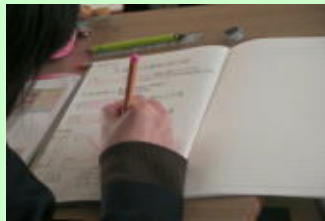
- ・ 一番後ろの席からでも見える大きさにする。

書く時間の見通しを伝える

- ・ 「〇時〇分まで」と黒板に書いて、伝える。



1 単位時間の授業で行う内容が示されています。



1 ページに収まるように、情報が整理されています。

黒板の左右のエリアとノート
の上下エリアとを対応させ、視線の移動がしやすいように工夫されています。短期記憶が弱い場合は、板書のどこまでをノートに書き写したかが分からなくなることがあります。そうした際の支援として、板書のエリアとノートのエリアを対応させる支援は効果的であるといえます。

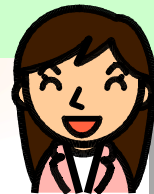
板書に色チョークを使うことによって、重要箇所が分かりやすくなるだけでなく、板書が構造化され、意味のまとまりを見付けやすくなります。

また、着色された文字が板書とノートの間を視線が移動する際の手がかりとなります。

アセスメントシートを活用して <担任の振り返り>

全

学級の実態や教科担任の気付きから、「ノートを正しくとる」ということに注目し、アセスメントシートの結果に基づいて、指導・支援を考えていきました。まずは、自分自身が板書を見直し、ノートを正しくとりやすくするための工夫を考えて、実施することができました。今後は、それらの工夫をどのようにして、他の教科担任と共通理解していくかを考えていきたいと思っています。



大切にしたいこと <全体を通してのコメント>

このクラスは第3学年で、担任教師が第1学年のときから持ち上がってきたということもあり、2年以上にわたる継続したかわりの中で、実態把握もなされていきました。担任はノートを正しくとることができない困難さに気付いていましたが、その背景が、どんな要因であるかを特定するまでには至っていませんでした。今回アセスメントシートを実施することで、その要因を予測し、具体的な支援を導き出すことができたと考えられます。

この事例は、アセスメントシートの結果の中から、教科担任の教師が課題だと感じていた学級集団の特徴に関連のある観点に焦点を当てて、支援を導き出しています。つまり、教師が普段から地道に積み上げてきた実態把握が重要な役割を果たしていたといえます。その際、他の観点から得られる情報も関連付けながら、具体的な支援に結び付けていくことが大切です。



3 活用につながる支援の手だてリスト

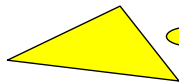
アセスメントシートから得られた結果を分析し、授業設計につないでいくためには、児童生徒の認知特性に応じた支援を導き出していくことが大切です。

そこで、岡山県総合教育センターのWebページには、8観点に関連すると思われる支援の手だてと具体例を下の表のようにまとめています。

支援の手だてリスト		1 ことばを見つけよう ★語を視覚的なまとまりとして素早く認識できる力	2 書き写そう ★文章を見て書き写す力	3 見 ★見た
1	目標・ねらい 学習の評価	1) 活動が分かりやすい目標にする 2) 子どもに分かるように提示する 3) 授業の振り返りをする	1) 活動が分かりやすい目標にする 2) 子どもに分かるように提示する 3) 授業の振り返りをする	1) 活 2) 子 3) 授
2	授業の構成	4) 読む時間を十分にとる	4) 文字を書くときは言語化して書かせる 5) 空書を行う 6) 書くときの手がかりを用意する	4) 計 5) 問
3	学習のルール	5) 分からないときのルールを決める 6) 読むときの約束を決める	7) 分からないときのルールを決める 8) 書くときの姿勢や筆記用具の使い方を教える	6) わ
4	指示・説明	7) せかさずに最後まで読ませる 8) 読む量を調整する	9) 活動の手順を分かりやすく示す	7) 活
5	教材・教具	9) 理解を補助する絵などを使う 10) 読みを補助する教材教具などを利用する 11) 文字の大きさや字体などを工夫する	10) 扱いやすい道具を使わせる 11) 書字の負担を軽減するための配慮をする	8) 扱 9) 視 10) ワ
6	板書の工夫 ノート指導	12) 字の大きさ、余白に配慮する 13) 枠で囲むなど読みやすい工夫をする	12) 字の大きさ、余白に配慮する 13) マス黒板を活用する	11) マ 12) ノ



具体例



クリックすると

全体への支援	より個別的な支援(教材の工夫など)
5) 分からないときのルールを決める ・うまく話せないときの合図を学級のルールとして決めておく	・途中で読めなくなったときに、「手をあげる」、「おたすけカード」を出すなどの合図を決める
6) 読むときの約束を決める ・本の持ち方、読むときの姿勢を指導する ・「,」「。」で一息入れて読ませる ・適当な声の大きさと読ませる	・友達が途中で読めなくなったときにすぐに教え合える支持的な関係をつくる

「支援の手だてリスト」の詳細については、岡山県総合教育センターのWebページ (<http://www.educetr.pref.okayama.jp/chousa/kiyou/h22/10-03/>) からアクセスし、項目上をクリックすると閲覧できます。

なお、リストは随時更新し、授業改善の一助となるよう努めていきたいと考えています。御理解と御協力をよろしくお願いいたします。

おわりに

学級全体にとって
一人一人の子どもたちにとって
よりよい授業づくりのために

ある教師のつぶやきです。

「支援の必要な児童がいることは分かっています。その児童のところに行って、個別に支援したいと思っています。でも、すぐにそばに行って支援してあげることができないことも多いのです。だから、学級全体に対する支援が、少しでも個別の支援につながるようなよい方法を探しているのですが…。」

このつぶやきは、多くの教師の声を代弁しているように聞こえます。と、同時に、通常の学級における授業づくりの在り方について示唆しているようにも聞こえます。

この声に、少しでもこたえることができたらと思い、アセスメントシートを開発し、このブックレットの中で、指導・支援の在り方を探ってきました。そして、実践を通して、少しずつではありますが成果も見えてきました。

しかし、次のような課題も明らかになってきました。

- 「支援の手だてリスト」の改善など、実態把握から授業設計への接続部分の在り方
- 教科の特性を踏まえた、多くの児童生徒にとって分かりやすい授業づくりとの関連

これらの課題を踏まえつつ、これからも研究に取り組んでいきたいと考えています。

このアセスメントシートは、授業における指導・支援にどのように役立てるかということに目的があります。決して児童生徒をラベリングする材料ではありません。アセスメントシートから得られた情報を「教師と児童生徒あるいは児童生徒間の関係性」や「日ごろの学習・生活にかかわる情報」などに関連を持たせながら、総合的に児童生徒の実態を把握することで、より適切な指導・支援が導き出されるのではないかと考えています。

このアセスメントシートとブックレットが、少しでも授業づくりの参考になれば幸いです。

参考文献

- 1 廣瀬由美子・桂聖・坪田耕三（2009）『通常の学級担任がつくる授業のユニバーサルデザインー国語・算数授業に特別支援教育の視点を取り入れた「わかる授業づくり」ー』東洋館出版社
- 2 岡山県総合教育センター（2009）『通常学級における特別支援教育の観点から見た学級経営・授業づくり』
- 3 笹森洋樹他（2010）「小・中学校等における発達障害のある子どもへの教科教育等の支援に関する研究」『平成20～21年度研究成果報告書』独立行政法人国立特別支援教育総合研究所
- 4 授業のユニバーサルデザイン研究会編著（2010）『授業のユニバーサルデザインVol. 1』東洋館出版社
- 5 岡山県教育委員会（2010）『“通常の学級における”「特別支援教育」の視点を取り入れた授業づくり』

通常の学級における特別支援教育の観点を取り入れた授業づくり
ーアセスメントシートを活用してー
研究協力委員会

指導助言者

柳原正文 岡山大学教授

研究協力委員

岡山県内公立学校教諭 4名

高橋章二 岡山県総合教育センター特別支援教育部部長
北川和美 岡山県総合教育センター特別支援教育部指導主事
片岡一公 岡山県総合教育センター特別支援教育部指導主事
村上直也 岡山県総合教育センター特別支援教育部指導主事（平成22年度）
定久照美 岡山県総合教育センター特別支援教育部指導主事（平成22年度）
山本章雄 岡山県総合教育センター特別支援教育部指導主事（平成21年度）
（現 岡山県立岡山支援学校教諭）

平成23年2月発行

編集兼発行所 岡山県総合教育センター

〒716-1241 岡山県加賀郡吉備中央町吉川7545-11

TEL (0866) 56-9101 FAX (0866) 56-9121

URL <http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/>

E-MAIL kyouikuse@pref.okayama.lg.jp

お問い合わせ 特別支援教育部 TEL (0866) 56-9106

Copyright © 2011 Okayama Prefectural Education Center

アセスメントシート 活用の手順

1 下記に御連絡ください。

岡山県総合教育センター 特別支援教育部
TEL (0866) 56-9106 FAX (0866) 56-9126

2 趣旨や条件を御理解いただいた方に、アセスメントシートパッケージを送付します。

★パッケージに入っているもの

- ①アセスメントシート(小学校第1～3学年用・小学校第4～6学年用・中学校用)
- ②実施マニュアル(小学校第1～3学年用・小学校第4～6学年用・中学校用)
- ③解答例
- ④集計表(Excelファイル)
- ⑤支援の手だてリスト

3 実施マニュアルに沿って実施します。

4 採点して、集計表に入力します。

5 結果を分析します。

6 「支援の手だてリスト」を参考にして指導・支援を考えます。

※このブックレットは途中で見開きでご覧頂きたいページがありますので、両面印刷されてから、製本されることをお勧めします。

* このブックレットのイラストは株式会社ジャストシステムの「花子2008」に収録されているものを使用しています。使用に際しては、株式会社ジャストシステムのガイドラインに従って使用しています。また、当該デザインの無断複製は禁じられています。